

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4-945		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400465-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

尊厳を大切にすることを事業所目標とし、ユマニチュードの活用や、認知症状からおこりうる周辺症状を理解し、受け止めることに重点を置き、利用者様、ご家族はもちろん、誰が、見ても心地よいと思っただけのホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念として、「全従業員のもの心両面の幸福を追求する」「人類、社会の進歩発展に貢献する」「誰もが安心して暮らせる社会を創造し、貢献する」等を掲げている。職員は、利用者一人ひとりが毎日安心して暮らせるよう支援している。法人代表が中心となり、月1回「木鶏会」を開催し、事前配布した課題についての感想文を全職員が発表している。個々の心理把握やコミュニケーションの機会となり、介護知識の向上、良好な人間関係づくりに活かしている。同法人が運営する事業所全体で協働し、研修会や情報交換、課題解決に取り組む体制を整え、サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、夕礼に復唱し意識の向上と実践につなげていけるよう会議等でも話し合っています。	理念を共有空間に掲げ、朝礼・夕礼時に復唱し、常に確認しながら、振り返りも行っている。職員は、利用者が住み慣れた地域で安心して生活が出来るよう、認知症の知識を深めケア技術を学びながら、支援の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなかと交流までにはつなげていませんが散歩へ出掛けた時には近所の方とお会いした時には挨拶するように心がけております。	コロナ禍で地域との交流を自粛していたが、今年は地元の祭りが開催され、子ども神輿や獅子舞の訪問があり、利用者は楽しい時間を過ごすことが出来た。現在は、散歩時の挨拶程度であるが、今後は感染予防をし、地域行事があれば参加する予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催となりましたので、ご家族の方にも参加して頂き、ホームの様子をお伝えすることが出来ました。また、意見を頂きサービス向上につなげています。	運営推進会議は対面での開催が可能となり、コロナ禍での取り組みや今後の予定など説明し意見交換を行っている。参加家族からは、コロナ禍での利用者への対応について感謝の声もあり、さらにサービスの向上に活かしている。	現在、自治会長や地域の人の参加が得られていない。地域包括支援センターの協力を得ながら、地域関係者や近隣住民に参加依頼をするなど、地域に密着した運営に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あまり関わる機会が少ないですが、何かあればすぐに連絡、連携が取れるようにしております。	市担当者や地域包括支援センター担当者から、地域高齢者の現状やコロナとインフルエンザ感染の情報を得て、運営の参考にしている。日頃から運営状況の報告や困難事例などを相談し、良好な関係作りに努めている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はありませんが、出ていかれる可能性が高い利用者様がおられるため、現在は常に施錠させて頂いています。様子を見ながら少しずつ減らしていきたいです。	代表と同法人5事業所で身体拘束合同委員会を開催し、現状把握や対応策を話し合い、拘束しないケアの実践に努めている。委員会や研修会の情報は全職員に周知している。玄関の施錠は、利用者の状態や職員の勤務状況で、施錠することもある。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修を職員に受けて頂いたりどの様な事が虐待となりうるのかをミーティングで話し合い防止に努めています。	身体拘束と虐待防止委員会を併せて開催している。毎回、「適切なケアと不適切なケア」「ユマニチュードの実施」など、テーマを決めて話し合っている。虐待防止の重要性を全職員で共有し、常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場等で関することを話し合い理解に繋げられるよう学んでいます。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にはホームへ見学に来ていただき説明やご家族の不安や思っておられることにお答えし理解して頂ける様にしています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時や電話をするときには意見や要望を聞き運営に反映している。(担当者会議も実施している)	毎月、担当者が利用者の日頃の様子を記入した「生活便り」や写真付きの新聞を家族に送付している。家族の安心に繋がりが喜ばれている。家族の訪問時や電話連絡の際に、意向や要望を聞き、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング内でも勉強をしたり利用者様の希望等皆で話し合い反映している。(担当制実施)	毎月、職員会議を行なっている。管理者も現場に入っており、職員の意見や要望などを聞きとり、改善が必要なことは迅速に対応している。職員のための「意見箱」を設置し、いつでも意見を出せる環境にしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	シフトのバランスの配慮(有休消化)年に1回健康診断の実施(夜勤者は年に2回)	就業規則に則り、有給休暇の取得、健康診断の実施などが整備されている。管理者は職員の家庭の事情等も把握し、ワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、シフト作りを行っている。現在、職員は共有場所で同時に休憩しているが、時間をずらしたり、別の休憩場所について検討中である。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内にてキャリアパス実施。チャレンジングシート活用等しながら実施していけるよう取り組んでいる。	年1回、チャレンジングシートを活用した自己評価、管理者評価に取り組んでいる。職員の現状把握とチャレンジ内容について、共通認識できるよう確認している。また、同法人事業所間で交流を重ね、法人全体で介護の質の向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流できていません。これからの研修等の機会には積極的に参加し交流を深めていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には毎日を楽しく安心して過ごして頂けますよう常に感謝の気持ちを忘れないよう努めております。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応を心掛けご本人との会話や行動等でご本人の把握に努めています。	入居時に、利用者と家族からの情報を得て、思いや意向を把握している。入居後は、日々の会話やトイレ介助、入浴支援の個別対応時に本人に聞き、尊重しながら、常に利用者が安心して暮らせるよう、本人本位の支援に取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにおいてケースカンファレンスで評価しています。年に一度担当者会議を行いご家族の意向等を介護計画にいかしています。	利用者や家族の参加を得て担当者会議を開催し、介護計画を作成している。家族が参加出来ない時は、ケアマネジャーが直接会って希望や意見を聞いている。利用者の現状把握のため、現場にも入って職員と情報を共有し、評価を行いながら作成や見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を申し送りにおいて日々の状態を職員間で情報共有しミーティングで話し合い介護支援計画の見直しにいかしています。	介護記録や申し送りノートに、利用者との会話内容、新しく出来たことや出来なくなったことなどを詳細に記録し、介護計画の見直しにも活かしている。申し送りノートに記入した事も、口頭で伝えるなど臨機応変に対応し、日々のケアに反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生まれるニーズに応じてご家族の協力を仰ぐなどその時々サービスのサービスにつなげています。	家族の依頼がある場合、家族に代わって事業所でも対応し支援している。衣替えの時期に、家族が男性の場合は下着などの購入等が難しいこともあり、職員が買い物代行を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の思いに応じて近隣への散歩や遠くは木曾三川公園等へ出掛けています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けて状態の把握に努めています。また、入所前からのかかりつけ医を希望の方は継続して頂いています。	入居前のかかりつけ医を継続する場合は、家族が受診同行や往診依頼をしている。協力医は月2回の往診があることを説明し、家族が選択している。医師や訪問看護師との連携で、適切な医療を受けられるよう支援している。他科専門医への受診は家族に依頼し、緊急時は職員が対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要となった場合入院先へ情報提供を行い連携に努め退院時は病院内でカンファレンスを行っています。	入退院の手続き等は管理者が行い、代表や家族と話し合い、安心して治療ができるよう支援している。入院時は病院関係者と早期退院に向けて情報交換し、退院時は受け入れ体制を整え、その後も病院関係者と連絡を密にしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の診断の元ご家族訪問看護と共に会議を開催し方針の確認を行っています。	契約時に、重度化や終末期においての事業所の方針を家族・利用者に説明し同意を得ている。状態の変化時は早い段階で、主治医の診断を仰ぎ、管理者と家族、関係者で話し合い、方針を確認し、より良い支援の提供に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度はコロナで中止しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を中心に避難訓練を実施しています。会社で借りているアパートへの避難訓練も実際に行いました。	夜間想定を含めた防災訓練は、マニュアルを基に事業所のみで実施し、消防署に報告している。事業所は平屋建てのため、水害時には会社が借りているアパートを避難場所とする訓練も実施している。	地震や水害災害対策としても、地域の協力を得られるよう、地元の防災訓練への参加が望ましい。利用者の状態変化に合わせて、避難場所や具体的な誘導方法の確立にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った介助を行い個人の存在や価値を尊重しています。自己決定やその人らしさを大切にしています。	利用者一人ひとりの情報を全職員で共有し、人格尊重とプライバシー保護に努めている。特に入浴や排泄介助の声掛けは、羞恥心に配慮しながら対応している。研修では、テーマを決めて話し合い、共通認識を持って、適切なケアに取り組んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	〇〇が食べたい、したいなどの希望に添えるよう対応させて頂いています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に配慮し一人一人のペースを大切に支援することに努めています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどお聞きし料理の仕方なども教えて頂いています。一人一人の食べやすい形態に配慮しています。	調理の専門知識がある職員が、栄養バランスを考慮して献立を作り、3食手作りである。利用者の状態に合わせた食事形態で提供し、どの利用者も毎食完食できている。利用者も、出来る人は下準備を手伝うなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量や形体を工夫し水分補給をこまめに声掛け行い摂取して頂いています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は残留物が残らない様口腔ケアを徹底しています。	職員は口腔ケアの必要性を利用者に説明している。毎食後、可能な限り、自力での口腔ケア実施を促し、できない部分を支援している。義歯の利用者の場合は、適切な管理と口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホーム夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン等把握し声掛けにてトイレ誘導介助しています。快適に過ごして頂けるよう配慮しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっていますがその都度希望に応じて対応させていただきます。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれるタイミングは個々にまかせています。他の方の妨げにならない程度に過ごして頂いています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のとおり投与しています。飲まれるまで確認するよう徹底しています。	管理者が服薬管理を行い、薬剤師からの説明を全職員に周知させている。服薬時は職員2名でチェックし、飲み終えるまで見届けることを徹底している。薬の変更時は、申し送りノートで全職員に伝え、誤薬のないよう努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事(新聞たたみ、洗濯ものたたみ他)支援し過ごして頂いています。	利用者の意向を聞きながら、集団または個別での対応で支援している。利用者が新聞たたみや洗濯物たたみなどを行った時には、職員は労いの声かけをし、利用者の自信とやる気に繋げている。また、季節や行事に合ったおやつ作りも一緒に行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩に出かけたり皆でドライブに出かけ花を見たりと外出しています。	コロナ禍は、様々な制限もあり、近隣の散歩で気分転換を図っていた。コロナ感染症対応の緩和に伴い、事業所前でバーベキューや花火鑑賞を楽しんだり、ドライブを兼ねて、ひまわりやコスモス見学に出掛けている。	

岐阜県 グループホーム夢家族・正木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本置いていません。必要な物がある時は家族にお願いするか代理で購入します。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本かける事はありませんが、要望があればかけていただく事もあります。ハガキを代筆させていただく事もあります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような飾り付けをしたり明るく楽しい空間作りをしています	共用空間は広く、日差しも入り明るい。天井にシーリングファンが設置されており、室内の温度が一定に保たれている。居間の壁や廊下には、季節感ある利用者の手作り作品や写真を掲示している。ソファや椅子を適切に配置し、利用者が好きな場所で居心地よく過ごせる環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	明るくつろげる共有スペース作りに努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族利用者様におかせしています。飾りなど好みに飾って頂いています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はつづけて頂く。出来たところは共によりこび共感するよう心がけています。		